

[学校再編の検討状況に関する市民説明会]

2. 学校再編案について (第7回検討委員会時点)

那加・桜丘中学校グループ

令和8年7月27日(月)
産業文化センター

各務原市教育委員会



▲ 検討の詳細は、市ウェブサイトにて
公開しています。

この資料での説明の流れ

1. 学校の再編方針について

(基本計画(改定版)について)

2. 具体的な学校再編の検討について①

第一段階 学校規模(児童生徒数)の評価

第6回検討委員会
までの審議内容



3. 具体的な学校再編の検討について②

第二段階 学校整備地の選定

第7回検討委員会
での審議内容

4. (参考) 全市的な学校再編案について

1. 学校の再編方針について

(基本計画(改定版)について)

各務原市

学校再編に向けて

各務原市学校適正規模・適正配置等に関する基本計画（改定版）【概要版】

POINTポイント

1. 市内全小中学校の再編を検討
2. 小中一貫教育の推進と新たな学校種『義務教育学校』
3. 学校の適正な規模の決定
4. 学校の適正な配置と通学環境・通学手段への配慮
5. 再編対象グループの決定



詳細は「概要版」をご覧ください。

2. 具体的な学校再編の検討について①

第一段階 学校規模（児童生徒数）の評価

各小学校区における児童生徒数の将来推計結果

那加第一小学校区	令和12	令和17	令和22	令和27	令和32	令和37	令和42	令和47
児童数	850	716	717	745	761	749	740	731
生徒数	498	452	376	379	398	400	389	386
那加第二小学校区	令和12	令和17	令和22	令和27	令和32	令和37	令和42	令和47
児童数	377	341	369	352	324	291	260	238
生徒数	224	174	187	175	168	152	135	120
那加第三小学校区	令和12	令和17	令和22	令和27	令和32	令和37	令和42	令和47
児童数	427	368	348	337	317	294	277	263
生徒数	210	206	188	176	173	159	147	139
尾崎小学校区	令和12	令和17	令和22	令和27	令和32	令和37	令和42	令和47
児童数	68	78	69	52	38	27	18	13
生徒数	68	29	40	31	23	16	12	8

学校規模の基準

※1学級35人を想定

学校規模		小規模校		適正規模校	大規模校		
		適正化すべき小規模校			大規模校①	大規模校②	適正化すべき過大規模校
小学校	児童数 (想定学級数)	120人以下 かつ 6学級以下	121~215人 (11学級以下)	216~630人 (12~18学級)	631~840人 (19~24学級)	841~1,050人 (25~30学級)	1,051人~ (31学級以上)
中学校	生徒数 (想定学級数)	120人以下 かつ 6学級以下	121~212人 (8学級以下)	213~630人 (9~18学級)	631~840人 (19~24学級)	841~1,050人 (25~30学級)	1,051人~ (31学級以上)
義務教育学校	児童生徒数 (想定学級数)	180人以下 かつ 9学級以下	181~323人 (17学級以下)	324~945人 (18~27学級)	946~1,260人 (28~36学級)	1,261~1,575人 (37~45学級)	1,576人~ (46学級以上)



今後40年において、目指すべき学校規模

採用できる再編パターン	採用できない再編パターン
・小学校、中学校は、1学年5クラスまで ・義務教育学校は、1学年4クラスまで	・「適正化すべき小規模校」「適正化すべき過大規模校」が発生してしまう ・早期(令和17年まで)に小規模校が発生してしまう ・義務教育学校において、将来にわたり、1学年5クラスが発生してしまう(大きすぎる)

- ▶ 再編対象グループ内における小学校区単位で、小学校同士の統合や義務教育学校化といった様々なパターンを検討評価

第一段階の評価を踏まえた再編パターンのまとめ

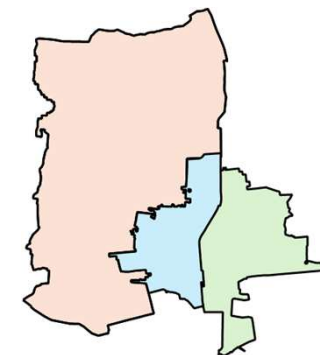
●那加・桜丘(1) ➡ 現在の中学校区をベースにした義務教育学校化

	R12年	R17年	R22年	R27年	R32年	R37年	R42年	R47年
(仮称)那加第一義務教育学校	1,348	1,168	1,093	1,124	1,159	1,149	1,129	1,117
(仮称)那加第三義務教育学校	637	574	536	513	490	453	424	402
(仮称)那加第二尾崎義務教育学校	737	622	665	610	553	486	425	379



●那加・桜丘(2) ➡ 飛び地を解消し、隣接する那加第一小校区と尾崎小校区を一つの学校区とした義務教育学校化

	R12年	R17年	R22年	R27年	R32年	R37年	R42年	R47年
(仮称)那加第一尾崎義務教育学校	1,484	1,275	1,202	1,207	1,220	1,192	1,159	1,138
(仮称)那加第三義務教育学校	637	574	536	513	490	453	424	402
(仮称)那加第二義務教育学校	601	515	556	527	492	443	395	358



●那加・桜丘(3) ➡ 那加・桜丘(2)をベースに、学校規模の観点から、那加第二小校区と那加第三小校区を一つの学校区とした義務教育学校化

	R12年	R17年	R22年	R27年	R32年	R37年	R42年	R47年
(仮称)那加第一尾崎義務教育学校	1,484	1,275	1,202	1,207	1,220	1,192	1,159	1,138
(仮称)那加第二那加第三義務教育学校	1,238	1,089	1,092	1,040	982	896	819	760



▶ 将来にわたり一定規模が確保される義務教育学校化のパターンを評価し、
3つのパターンが選定された

3. 具体的な学校再編の検討について②

第二段階 学校整備地の検討

第一段階で評価した再編パターンについて、**既存の学校敷地**を基本として、次の項目を整理

- ① 進学先となる学校敷地(※1)に通学する通学支援対象者数(通学距離が2kmを超える児童数)
※1 学校敷地(整備候補地)は、再編により新たな学校区となった区域にある現小・中学校敷地
- ② 将来の児童生徒数に応じた必要な実質敷地面積(※2)が確保されているか
※2 現学校敷地から法面や進入路といった建替時に活用が困難な敷地面積を除いた面積

▶ 義務教育学校における必要敷地面積

適正規模校 (9学年で合計18~27学級)			大規模校① (9学年で合計28~36学級)		
3階建	4階建	5階建	3階建	4階建	5階建
20,700㎡	18,800㎡	17,600㎡	23,400㎡	21,000㎡	19,600㎡

「中学校整備指針(文部科学省)」において、中学校の校舎等は4階以下の建物で計画することが望ましいとされていることを踏まえ、校舎建築面積の算定にあたって、義務教育学校は4階を基本的な校舎階数とする

①及び②の整理結果に加え、本市が推進する施設一体型義務教育学校の実現性について、総合的に評価

第二段階の検討フロー

1. パターンごとの学校整備地の選定

(1) 通学支援対象者数  より少ない整備候補地を選定

 大きな差がない

以下の観点を追加し、整備候補地を選定

- (2) 再編による新たな幹線道路（国道21号又は江南関線）や線路をまたぐ通学路の有無
- (3) 将来の児童生徒数に応じた最低限必要となる敷地面積の確保
- (4) 最低限必要となる敷地面積に対する余裕度
- (5) 校地の防災性

2. パターン同士の比較検討

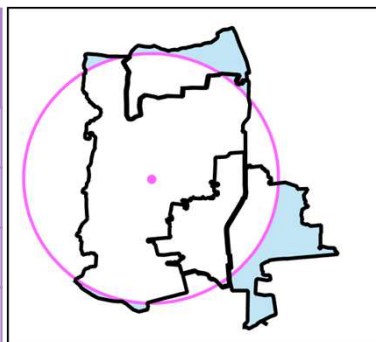
- (1)～(5)の観点に加え、下記観点を追加し、総合的に比較検討
- (6) 整備予定の学校数
- (7) 飛び地の解消

最も適切と考えられる学校再編パターンを決定

通学支援対象者（通学距離2km越え児童）の整理

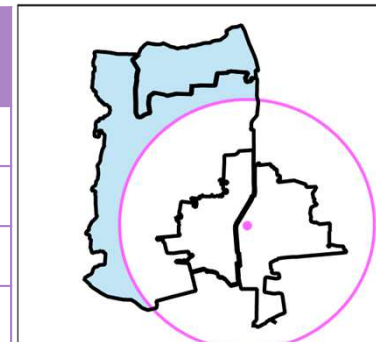
現那加第一小敷地

小学校区	R22年時点の 対象児童数
那加第一小校区	18
那加第二小校区	274
那加第三小校区	16
尾崎小校区	15



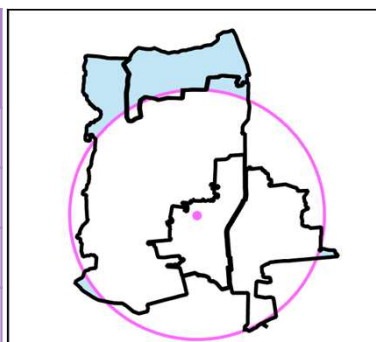
現那加第二小敷地

小学校区	R22年時点の 対象児童数
那加第一小校区	221
那加第二小校区	0
那加第三小校区	0
尾崎小校区	69



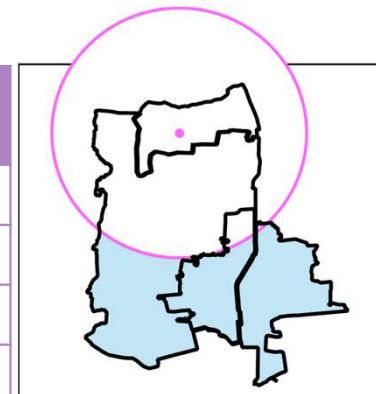
現那加第三小敷地

小学校区	R22年時点の 対象児童数
那加第一小校区	96
那加第二小校区	28
那加第三小校区	0
尾崎小校区	69



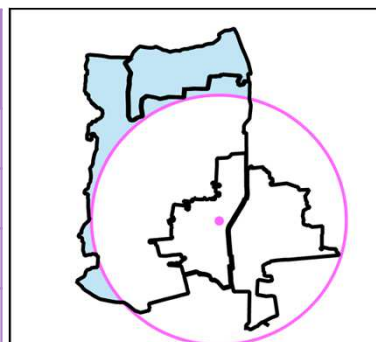
現尾崎小敷地

小学校区	R22年時点の 対象児童数
那加第一小校区	322
那加第二小校区	369
那加第三小校区	315
尾崎小校区	0



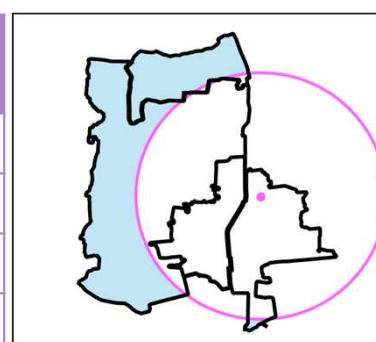
現那加中敷地

小学校区	R22年時点の 対象児童数
那加第一小校区	180
那加第二小校区	0
那加第三小校区	0
尾崎小校区	69



現桜丘中敷地

小学校区	R22年時点の 対象児童数
那加第一小校区	349
那加第二小校区	12
那加第三小校区	0
尾崎小校区	69



*学校の建替には約10年程度かかると見込まれることから、通学支援対象者数は令和22年時点としている

各学校敷地（実質敷地面積）と必要敷地面積との比較

学校名称	敷地面積 (㎡)	実質 敷地面積 (ha)	適正規模校における最低限の 必要敷地面積の確保 (18,800㎡)		大規模校①における最低限の 必要敷地面積の確保 (21,000㎡)		校地の防災性
				余裕度		余裕度	
那加第一小学校	40,109	約3.0	◎ (可能)	○ (+1.1ha程度)	◎ (可能)	△ (+0.9ha程度)	
那加第二小学校	30,499	約2.6	◎ (可能)	△ (+0.7ha程度)	◎ (可能)	△ (+0.5ha程度)	浸水想定区域あり (L1:3.0m未満/L2:3.0m未満)
那加第三小学校	19,540	約1.9	◎ (可能)	△ (+0.0ha程度)	△ (要敷地拡張)	— (-0.2ha程度)	浸水想定区域あり (L1:0.5m未満/L2:3.0m未満)
尾崎小学校	45,426	約2.3	◎ (可能)	△ (+0.4ha程度)	◎ (可能)	△ (+0.2ha程度)	土砂災害警戒区域あり (急傾斜地)
那加中学校	45,373	約4.5	◎ (可能)	◎ (+2.6ha程度)	◎ (可能)	◎ (+2.4ha程度)	浸水想定区域あり (L1:無し/L2:3.0m未満)
桜丘中学校	38,623	約3.8	◎ (可能)	◎ (+1.9ha程度)	◎ (可能)	○ (+1.7ha程度)	浸水想定区域あり (L1:無し/L2:3.0m未満)

*実質敷地面積は、法面や進入路といった建替時に活用が困難な敷地面積を除いた面積とする。

*必要敷地面積の確保について、次のとおり評価している

◎:4階建が可能である ○:5階建が可能である △:5階建も困難であり、敷地拡張が必要である

*4階建に最低限必要となる敷地面積に対する余裕度について、次のとおり評価している

◎:実質敷地面積が必要敷地面積の2倍以上である ○:実質敷地面積が必要敷地面積の1.5倍以上2倍未満である

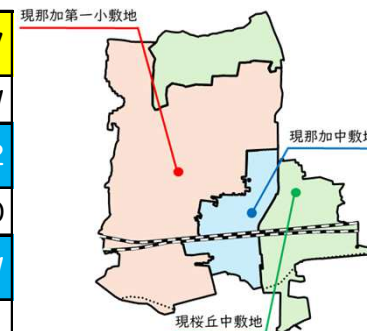
△:実質敷地面積が必要敷地面積の1.0倍以上1.5倍未満である —:実質敷地面積が必要敷地面積未満である

*校地の防災性について、浸水想定区域又は土砂災害警戒区域等に該当している学校敷地は、その概要を記載している

1. パターンごとの学校整備地まとめ

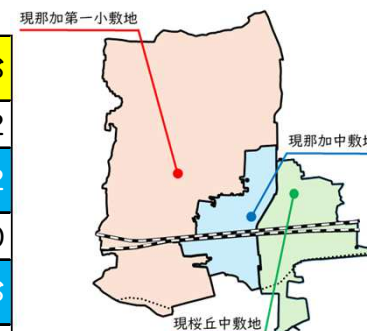
●那加・桜丘(1)

再編後の学校	学校整備地	R12年	R17年	R22年	R27年	R32年	R37年	R42年	R47年
那加第一義務教育学校	現那加第一小	1,348	1,168	1,093	1,124	1,159	1,149	1,129	1,117
	通学支援対象者数	22	18	18	19	19	19	19	19
那加第三義務教育学校	現那加中	637	574	536	513	490	453	424	402
	通学支援対象者数	0	0	0	0	0	0	0	0
那加第二尾崎義務教育学校	現桜丘中	737	622	665	610	553	486	425	379
	通学支援対象者数	80	89	81	63	48	36	26	21
通学支援対象者数の合計		102	107	99	82	67	55	45	40



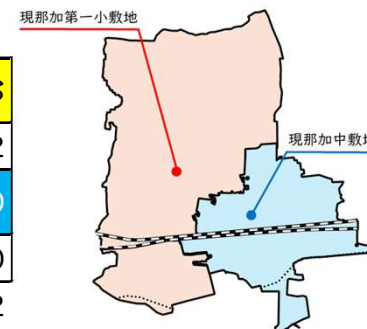
●那加・桜丘(2)

再編後の学校	学校整備地	R12年	R17年	R22年	R27年	R32年	R37年	R42年	R47年
那加第一尾崎義務教育学校	現那加第一小	1,484	1,275	1,202	1,207	1,220	1,192	1,159	1,138
	通学支援対象者数	37	35	33	31	28	25	23	22
那加第三義務教育学校	現那加中	637	574	536	513	490	453	424	402
	通学支援対象者数	0	0	0	0	0	0	0	0
那加第二義務教育学校	現桜丘中	601	515	556	527	492	443	395	358
	通学支援対象者数	12	11	12	11	10	9	8	8
通学支援対象者数の合計		49	46	45	42	38	34	31	30



●那加・桜丘(3)

再編後の学校	学校整備地	R12年	R17年	R22年	R27年	R32年	R37年	R42年	R47年
那加第一尾崎義務教育学校	現那加第一小	1,484	1,275	1,202	1,207	1,220	1,192	1,159	1,138
	通学支援対象者数	37	35	33	31	28	25	23	22
那加第二那加第三義務教育学校	現那加中	1,238	1,089	1,092	1,040	982	896	819	760
	通学支援対象者数	0	0	0	0	0	0	0	0
通学支援対象者数の合計		37	35	33	31	28	25	23	22



※各パターンにおける整備候補地の詳細な比較検討結果については、お配りした「資料編」をご覧ください。

2. パターン同士の比較検討

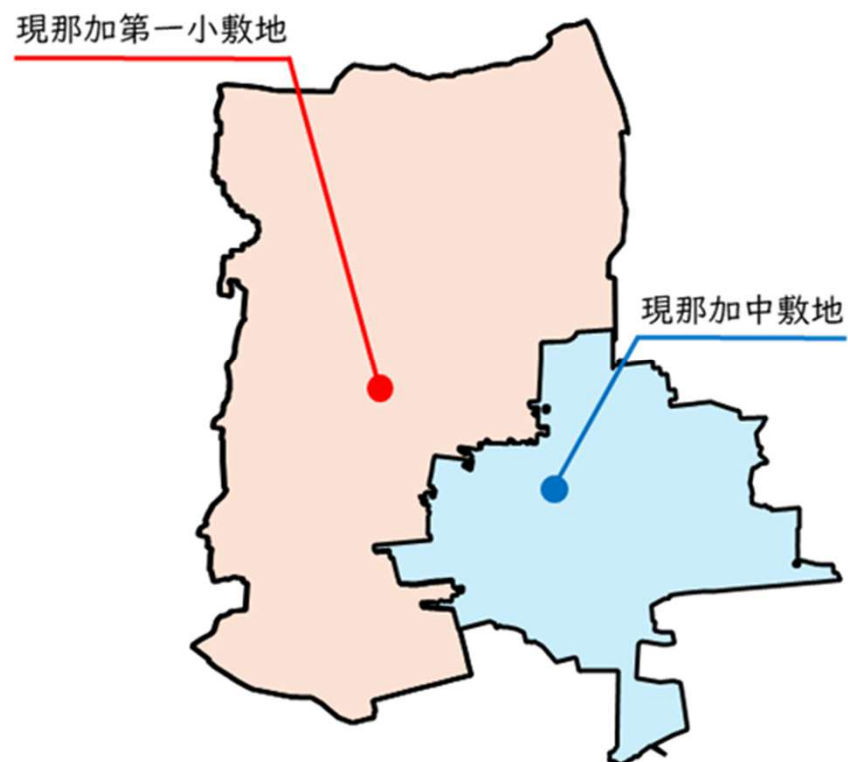
3つの再編パターン及び整備候補地について、(1)～(5)の観点に加え、整備学校数及び飛び地の解消の観点から改めて評価する。

パターン		通学支援対象者数 (R22年時点)		新たに 幹線道路 等をまたぐ 通学路の 有無	必要敷地面積 (4階建)		校地の防災性	整備学校数	最終評価	新たな学校区と 学校整備地の図	
再編後の学校(仮称)	整備候補地 (㎡)	学校別 人数			最低限 必要となる 面積の確保	最低限必要と なる敷地面積に 対する余裕度					
那加・桜丘(1)											
那加第一義務教育学校 大規模校①	現那加第一小 (約3.0ha)	△ 計99人	(18)	○	◎	△ (+0.9ha程度)	○	△ (3校)	○ △ 通学支援対象者が他のパ ターンに比べ多く発生する △ 学校数が3校となるため、 建替費用が大きくなる △ 学校区における「飛び地」 は解消されていない		
那加第三義務教育学校 適正規模校	現那加中 (約4.5ha)		(0)	○	◎	◎ (+2.6ha程度)	△				浸水想定区域あり (L1:無し/L2:3.0m未満)
那加第二尾崎義務教育学校 適正規模校	現桜丘中 (約3.8ha)		(81)	○	◎	◎ (+1.9ha程度)	△				浸水想定区域あり (L1:無し/L2:3.0m未満)
那加・桜丘(2)											
那加第一尾崎義務教育学校 大規模校①	現那加第一小 (約3.0ha)	○ 計45人	(33)	○	◎	△ (+0.9ha程度)	○	△ (3校)	○ ○ 通学支援対象者に課題は ない △ 学校数が3校となるため、 建替費用が大きくなる		
那加第三義務教育学校 適正規模校	現那加中 (約4.5ha)		(0)	○	◎	◎ (+2.6ha程度)	△				浸水想定区域あり (L1:無し/L2:3.0m未満)
那加第二義務教育学校 適正規模校	現桜丘中 (約3.8ha)		(12)	○	◎	◎ (+1.9ha程度)	△				浸水想定区域あり (L1:無し/L2:3.0m未満)
那加・桜丘(3)											
那加第一尾崎義務教育学校 大規模校①	現那加第一小 (約3.0ha)	○ 計33人	(33)	○	◎	△ (+0.9ha程度)	○	○ (2校)	◎ ○ 通学支援対象者に課題は 無い ○ 学校数が2校となり、建替 費用が小さくなる		
那加第二那加第三 義務教育学校 大規模校①	現那加中 (約4.5ha)		(0)	○	◎	◎ (+2.6ha程度)	△				浸水想定区域あり (L1:無し/L2:3.0m未満)

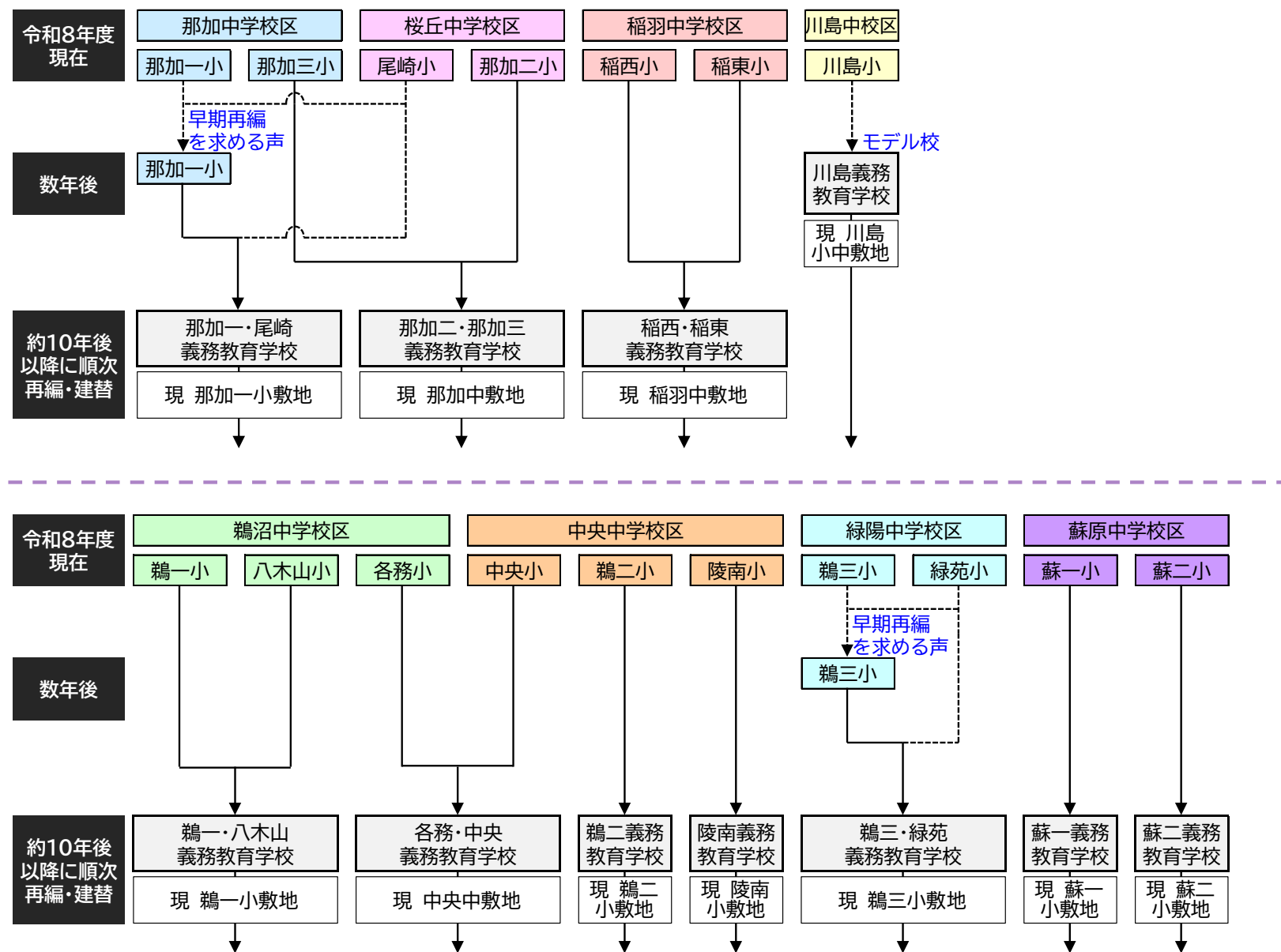
▶ 以上の評価結果より、那加・桜丘中学校グループにおける最も適切と考えられる学校再編案は、**那加・桜丘(3)**である。

那加・桜丘中学校グループにおける最も適切と考えられる再編案

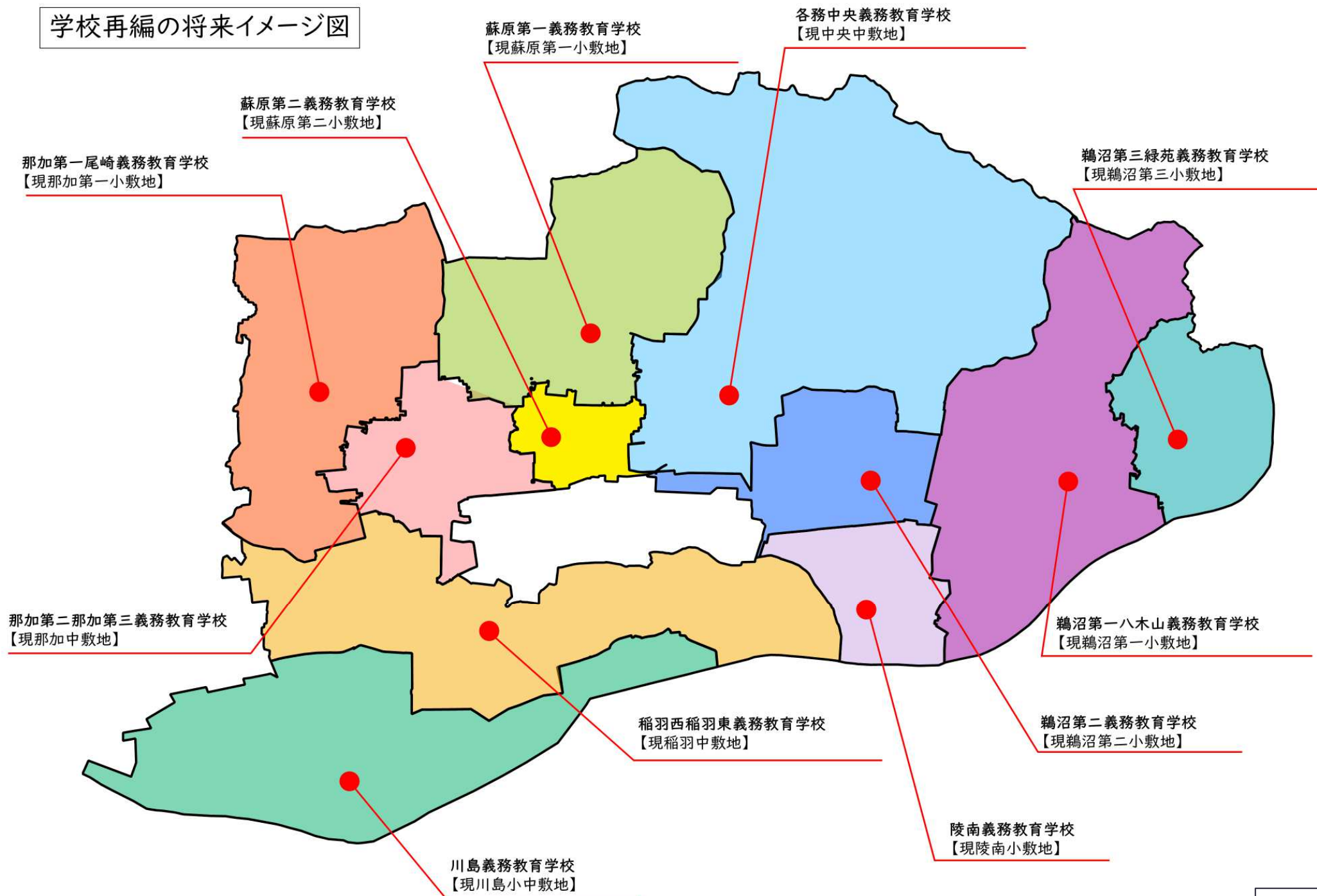
再編後の学校	R12年	R17年	R22年	R27年	R32年	R37年	R42年	R47年
(仮称) 那加第一尾崎義務教育学校 ◇学校整備地 現那加第一小	1,484	1,275	1,202	1,207	1,220	1,192	1,159	1,138
通学支援対象者数	37	35	33	31	28	25	23	22
(仮称) 那加第二那加第三義務教育学校 ◇学校整備地 現那加中	1,238	1,089	1,092	1,040	982	896	819	760
通学支援対象者数	0	0	0	0	0	0	0	0
通学支援対象者数の合計	37	35	33	31	28	25	23	22



4. (参考) 全市的な学校再編案について



学校再編の将来イメージ図



[学校再編の検討状況に関する市民説明会]

資料編 パターンごとの整備候補地における 比較検討結果

那加・桜丘中学校グループ

令和8年7月27日(月)
産業文化センター

各務原市教育委員会



▲ 検討の詳細は、市ウェブサイトにて
公開しています。

●那加・桜丘(1)

▶ 通学支援対象者数による比較評価

再編後の学校 整備候補地	R12年	R17年	R22年	R27年	R32年	R37年	R42年	R47年	通学支援 対象者数
(仮称)那加第一義務教育学校									
那加第一小	22	18	18	19	19	19	19	19	○
(仮称)那加第三義務教育学校									
那加第三小	0	0	0	0	0	0	0	0	○
那加中	0	0	0	0	0	0	0	0	○
(仮称)那加第二尾崎義務教育学校									
那加第二小	68	78	69	52	38	27	18	13	○
尾崎小	377	341	369	352	324	291	260	238	△
桜丘中	80	89	81	63	48	36	26	21	○

- (仮称)那加第一義務教育学校は、**現那加第一小学校**に整備することが想定される。
- (仮称)那加第三義務教育学校は、**現那加第三小学校**もしくは**現那加中学校**のどちらかに整備することが想定される。
- (仮称)那加第二尾崎義務教育学校は、**現那加第二小学校**もしくは**現桜丘中学校**のどちらかに整備することが想定される。

学校整備地の複数の組み合わせについて、(1)～(5)の観点より比較評価を行う

● 那加・桜丘(1)

▶ (1)～(5)の観点による比較評価

那加・桜丘(Ⅰ)に関する学校整備地の組み合わせ		通学支援対象者数 (R22年時点)		新たに 幹線道路 等をまたぐ 通学路の 有無	必要敷地面積 (4階建)		校地の防災性	比較結果	新たな学校区と 整備候補地の図	
再編後の学校(仮称)	整備候補地 (実質敷地面積 :ha)	学校別 人数			最低限 必要となる 面積の確保	最低限必要と なる敷地面積に 対する余裕度				
A										
那加第一義務教育学校 大規模校①	現那加第一小 (約3.0ha)	○ 計87人	(18)	○	◎ (可能)	△ (+0.9ha程度)	○	△ 現那加第三小敷地の 余裕度が小さい △ 現那加第二小敷地の 余裕度が小さい		
那加第三義務教育学校 適正規模校	現那加第三小 (約1.9ha)		(0)	○	◎ (可能)	△ (+0.0ha程度)	△			浸水想定区域あり (L1:0.5m未満/L2:3.0m未満)
那加第二尾崎義務教育学校 適正規模校	現那加第二小 (約2.6ha)		(69)	○	◎ (可能)	△ (+0.7ha程度)	△			浸水想定区域あり (L1:3.0m未満/L2:3.0m未満)
B										
那加第一義務教育学校 大規模校①	現那加第一小 (約3.0ha)	○ 計99人	(18)	○	◎ (可能)	△ (+0.9ha程度)	○	△ 現那加第三小敷地の 余裕度が小さい ○ 現桜丘中敷地の余裕 度が大きい		
那加第三義務教育学校 適正規模校	現那加第三小 (約1.9ha)		(0)	○	◎ (可能)	△ (+0.0ha程度)	△			浸水想定区域あり (L1:0.5m未満/L2:3.0m未満)
那加第二尾崎義務教育学校 適正規模校	現桜丘中 (約3.8ha)		(81)	○	◎ (可能)	◎ (+1.9ha程度)	△			浸水想定区域あり (L1:無し/L2:3.0m未満)
C										
那加第一義務教育学校 大規模校①	現那加第一小 (約3.0ha)	○ 計87人	(18)	○	◎ (可能)	△ (+0.9ha程度)	○	○ 現那加中敷地の余裕 度が大きい △ 現那加第二小敷地の 余裕度が小さい		
那加第三義務教育学校 適正規模校	現那加中 (約4.5ha)		(0)	○	◎ (可能)	◎ (+2.6ha程度)	△			浸水想定区域あり (L1:無し/L2:3.0m未満)
那加第二尾崎義務教育学校 適正規模校	現那加第二小 (約2.6ha)		(69)	○	◎ (可能)	△ (+0.7ha程度)	△			浸水想定区域あり (L1:3.0m未満/L2:3.0m未満)
D										
那加第一義務教育学校 大規模校①	現那加第一小 (約3.0ha)	○ 計99人	(18)	○	◎ (可能)	△ (+0.9ha程度)	○	◎ ○ 現那加中及び現桜丘 中敷地の余裕度が大きい		
那加第三義務教育学校 適正規模校	現那加中 (約4.5ha)		(0)	○	◎ (可能)	◎ (+2.6ha程度)	△			浸水想定区域あり (L1:無し/L2:3.0m未満)
那加第二尾崎義務教育学校 適正規模校	現桜丘中 (約3.8ha)		(81)	○	◎ (可能)	◎ (+1.9ha程度)	△			浸水想定区域あり (L1:無し/L2:3.0m未満)

▶ 学校敷地の余裕度が大きいことから、那加・桜丘(1)における新たな学校整備地はDとすることが想定される。

●那加・桜丘(2)

▶ 通学支援対象者数による比較評価

再編後の学校 整備候補地	R12年	R17年	R22年	R27年	R32年	R37年	R42年	R47年	通学支援 対象者数
(仮称)那加第一尾崎義務教育学校									
那加第一小	37	35	33	31	28	25	23	22	○
尾崎小	382	322	322	335	342	336	332	328	△
(仮称)那加第三義務教育学校									
那加第三小	0	0	0	0	0	0	0	0	○
那加中	0	0	0	0	0	0	0	0	○
(仮称)那加第二義務教育学校									
那加第二小	0	0	0	0	0	0	0	0	○
桜丘中	12	11	12	11	10	9	8	8	○

- (仮称)那加第一尾崎義務教育学校は、**現那加第一小学校**に整備することが想定される。
- (仮称)那加第三義務教育学校は、**現那加第三小学校**もしくは**現那加中学校**のどちらかに整備することが想定される。
- (仮称)那加第二義務教育学校は、**現那加第二小学校**もしくは**現桜丘中学校**のどちらかに整備することが想定される。



学校整備地の複数の組み合わせについて、(1)～(5)の観点より比較評価を行う

●那加・桜丘(2)

▶ (1)～(5)の観点による比較評価

那加・桜丘（2）に関する学校整備地の組み合わせ		通学支援対象者数 （R22年時点）		新たに 幹線道路 等をまたぐ 通学路の 有無	必要敷地面積 （4階建）		校地の防災性	比較結果	新たな学校区と 整備候補地の図	
再編後の学校（仮称）	整備候補地 （実質敷地面積 ：ha）	学校別 人数	最低限 必要となる 面積の確保		最低限必要と なる敷地面積に 対する余裕度					
A										
那加第一尾崎義務教育学校 大規模校①	現那加第一小 （約3.0ha）	○ 計33人	（33）	○	◎ （可能）	△ （+0.9ha程度）	○	△ 現那加第三小敷地の 余裕度が小さい △ 現那加第二小敷地の 余裕度が小さい		
那加第三義務教育学校 適正規模校	現那加第三小 （約1.9ha）		（0）	○	◎ （可能）	△ （+0.0ha程度）	△			
那加第二義務教育学校 適正規模校	現那加第二小 （約2.6ha）		（0）	○	◎ （可能）	△ （+0.7ha程度）	△			
B										
那加第一尾崎義務教育学校 大規模校①	現那加第一小 （約3.0ha）	○ 計45人	（33）	○	◎ （可能）	△ （+0.9ha程度）	○	△ 現那加第三小敷地の 余裕度が小さい ○ 現桜丘中敷地の余 裕度大きい		
那加第三義務教育学校 適正規模校	現那加第三小 （約1.9ha）		（0）	○	◎ （可能）	△ （+0.0ha程度）	△			
那加第二義務教育学校 適正規模校	現桜丘中 （約3.8ha）		（12）	○	◎ （可能）	◎ （+1.9ha程度）	△			
C										
那加第一尾崎義務教育学校 大規模校①	現那加第一小 （約3.0ha）	○ 計33人	（33）	○	◎ （可能）	△ （+0.9ha程度）	○	○ 現那加中敷地の余 裕度大きい △ 現那加第二小敷地の 余裕度が小さい		
那加第三義務教育学校 適正規模校	現那加中 （約4.5ha）		（0）	○	◎ （可能）	◎ （+2.6ha程度）	△			
那加第二義務教育学校 適正規模校	現那加第二小 （約2.6ha）		（0）	○	◎ （可能）	△ （+0.7ha程度）	△			
D										
那加第一尾崎義務教育学校 大規模校①	現那加第一小 （約3.0ha）	○ 計45人	（33）	○	◎ （可能）	△ （+0.9ha程度）	○	◎ 現那加中及び現桜丘 中敷地の余裕度が 大きい		
那加第三義務教育学校 適正規模校	現那加中 （約4.5ha）		（0）	○	◎ （可能）	◎ （+2.6ha程度）	△			
那加第二義務教育学校 適正規模校	現桜丘中 （約3.8ha）		（12）	○	◎ （可能）	◎ （+1.9ha程度）	△			

▶ 学校敷地の余裕度が大きいことから、那加・桜丘(2)における新たな学校整備地はDとすることが想定される。

●那加・桜丘(3)

▶ 通学支援対象者数による比較評価

再編後の学校 整備候補地	R12年	R17年	R22年	R27年	R32年	R37年	R42年	R47年	通学支援 対象者数
(仮称)那加第一尾崎義務教育学校									
那加第一小	37	35	33	31	28	25	23	22	○
尾崎小	382	322	322	335	342	336	332	328	△
(仮称)那加第二那加第三義務教育学校									
那加第二小	0	0	0	0	0	0	0	0	○
那加第三小	28	26	28	27	24	22	20	18	○
那加中	0	0	0	0	0	0	0	0	○
桜丘中	12	11	12	11	10	9	8	8	○

- (仮称)那加第一尾崎義務教育学校は、**現那加第一小学校**に整備することが想定される。
- (仮称)那加第二那加第三義務教育学校は、**現那加第二小学校**、**現那加第三小学校**、**現那加中学校**もしくは**現桜丘中学校**のいずれかに整備することが想定される。



学校整備地の複数の組み合わせについて、(1)～(5)の観点より比較評価を行う

●那加・桜丘(3)

▶ (1)～(5)の観点による比較評価

那加・桜丘（3）に関する学校整備地の組み合わせ		通学支援対象者数 （R22年時点）		新たに 幹線道路 等をまたぐ 通学路の 有無	必要敷地面積 （4階建）		校地の防災性	比較結果	新たな学校区と 整備候補地の図
再編後の学校（仮称）	整備候補地 （実質敷地面積 ：ha）	学校別 人数			最低限 必要となる 面積の確保	最低限必要と なる敷地面積に 対する余裕度			
A									
那加第一尾崎義務教育学校 大規模校①	現那加第一小 （約3.0ha）	○ 計33人	（33）	○	◎ （可能）	△ （+0.9ha程度）	○	○ △ 現那加二小敷地の余 裕度が小さい	
那加第二那加第三 義務教育学校 大規模校①	現那加第二小 （約2.6ha）		（0）	○	◎ （可能）	△ （+0.5ha程度）	△ 浸水想定区域あり （L1：3.0m未満／L2：3.0m未満）		
B									
那加第一尾崎義務教育学校 大規模校①	現那加第一小 （約3.0ha）	○ 計61人	（33）	○	◎ （可能）	△ （+0.9ha程度）	○	○ △ 那加第二那加第三義 務教育学校について、 最低限必要な敷地面 積が確保されていな い	
那加第二那加第三 義務教育学校 大規模校①	現那加第三小 （約1.9ha）		（28）	○	△ （要敷地拡張）	－ （-0.2ha程度）	△ 浸水想定区域あり （L1：0.5m未満／L2：3.0m未満）		
C									
那加第一尾崎義務教育学校 大規模校①	現那加第一小 （約3.0ha）	○ 計33人	（33）	○	◎ （可能）	△ （+0.9ha程度）	○	◎ ○ 現那加中敷地につい て、余裕度が大きい	
那加第二那加第三 義務教育学校 大規模校①	現那加中 （約4.5ha）		（0）	○	◎ （可能）	◎ （+2.6ha程度）	△ 浸水想定区域あり （L1：無し／L2：3.0m未満）		
D									
那加第一尾崎義務教育学校 大規模校①	現那加第一小 （約3.0ha）	○ 計45人	（33）	○	◎ （可能）	△ （+0.9ha程度）	○	○ △ 現桜丘中敷地につい て、一定の余裕度はあ るものの、大きすぎる ものではない	
那加第二那加第三 義務教育学校 大規模校①	現桜丘中 （約3.8ha）		（12）	○	◎ （可能）	○ （+1.7ha程度）	△ 浸水想定区域あり （L1：無し／L2：3.0m未満）		

▶ 学校敷地の余裕度が大きいことから、那加・桜丘(3)における新たな学校整備地はCとすることが想定される。

パターンごとの学校整備地まとめ

●那加・桜丘(1)

再編後の学校	学校整備地	R12年	R17年	R22年	R27年	R32年	R37年	R42年	R47年
(仮称)那加第一義務教育学校	現那加第一小	1,348	1,168	1,093	1,124	1,159	1,149	1,129	1,117
	通学支援対象者数	22	18	18	19	19	19	19	19
(仮称)那加第三義務教育学校	現那加中	637	574	536	513	490	453	424	402
	通学支援対象者数	0	0	0	0	0	0	0	0
(仮称)那加第二尾崎義務教育学校	現桜丘中	737	622	665	610	553	486	425	379
	通学支援対象者数	80	89	81	63	48	36	26	21
通学支援対象者数の合計		102	107	99	82	67	55	45	40

●那加・桜丘(2)

再編後の学校	学校整備地	R12年	R17年	R22年	R27年	R32年	R37年	R42年	R47年
(仮称)那加第一尾崎義務教育学校	現那加第一小	1,484	1,275	1,202	1,207	1,220	1,192	1,159	1,138
	通学支援対象者数	37	35	33	31	28	25	23	22
(仮称)那加第三義務教育学校	現那加中	637	574	536	513	490	453	424	402
	通学支援対象者数	0	0	0	0	0	0	0	0
(仮称)那加第二義務教育学校	現桜丘中	601	515	556	527	492	443	395	358
	通学支援対象者数	12	11	12	11	10	9	8	8
通学支援対象者数の合計		49	46	45	42	38	34	31	30

●那加・桜丘(3)

再編後の学校	学校整備地	R12年	R17年	R22年	R27年	R32年	R37年	R42年	R47年
(仮称)那加第一尾崎義務教育学校	現那加第一小	1,484	1,275	1,202	1,207	1,220	1,192	1,159	1,138
	通学支援対象者数	37	35	33	31	28	25	23	22
(仮称)那加第二那加第三義務教育学校	現那加中	1,238	1,089	1,092	1,040	982	896	819	760
	通学支援対象者数	0	0	0	0	0	0	0	0
通学支援対象者数の合計		37	35	33	31	28	25	23	22